



## サントリー文化財団 2023年度 研究助成「学問の未来を拓く」決定

公益財団法人サントリー文化財団（理事長 鳥井信吾）は、2023年度研究助成「学問の未来を拓く」として、応募総数439件のうち、30件を助成対象に決定しました。助成総額は3,000万円です。

本助成は、人文学、社会科学の分野において、従来の「研究」や「学問」を問い直す知的冒険に満ちたグループ研究に対して助成を行うものです。

本年度は、高齢化社会におけるユニバーサルサービスの構築について、高齢者にも利用しやすい図書館の社会実装を通して考える『『やわらか、やさしい』図書館を通じた超高齢社会における図書館のユニバーサルサービスの構築と社会実装』（代表：筑波大学図書館情報メディア系助教 武田将季氏）をはじめ、荒廃した建造物や古い都などの廃墟の表象について、多様な分野の専門家が協働し史跡や絵画、物語、芸能などを対象に多角的な検討を行う「前近代日本における廃墟の文化史」（代表：立正大学文学部教授 渡邊裕美子氏）など、新たな見地の提供が期待される冒険的な試みを多数採択しました。

### \* 選考委員

- 荒木 浩氏（国際日本文化研究センター教授）
- 遠藤 乾氏（東京大学教授）
- 隠岐さや香氏（東京大学教授）
- 金水 敏氏（放送大学大阪学習センター所長、特任教授）
- 酒井 隆史氏（大阪公立大学教授）
- 山室 信一氏（京都大学名誉教授）

### \* サントリー文化財団研究助成（公募）について

当財団は、1979年の設立以来、人文学、社会科学の分野において、広く社会と文化を考えるための国際的、学際的な研究活動に対し助成を行ってきました。

現在は、グループ研究助成「学問の未来を拓く」、個人研究助成「若手研究者のためのチャレンジ研究助成」の2つのプログラムを設けています。研究の成果は論文発表・図書出版などで広く内外に発表されています。

\* この件に関するお問い合わせ先

公益財団法人サントリー文化財団

研究助成「学問の未来を拓く」係

TEL 06-6342-6221 FAX 06-6342-6220

ホームページ <https://www.suntory.co.jp/sfnd/>

2023年度研究助成「学問の未来を拓く」 助成先一覧

No	研究テーマ	代表者
1	X R技術による場所同一性の実現	駒澤大学グローバル・メディア・ スタディーズ学部 講師 青柳 西蔵
2	静寂を聴く ― 無音の音楽的美に関する神経 美学研究 ―	関西大学文学部 教授 石津 智大
3	「農民芸術」の現代的解釈に基づく地域芸術論 の構築 ― 小さな共生社会の実現を目指して	群馬大学共同教育学部 准教授 市川 寛也
4	太鼓持ち（幫間）に関する学際的総合研究	金沢大学国際基幹教育院 教授 井出 明
5	「趣味」の昭和史の構築 ― シリアスレジャー の観点による生涯学習論の刷新に向けて ―	聖路加国際大学看護学部 准教授 歌川 光一
6	「レコード学」の構築 ― 研究基盤の形成と 魅力発信をめざして ―	九州大学総合研究博物館 専門研究員 大久保 真利子
7	日本の大衆文化におけるヨーロッパ中世主義の 受容と展開	東京都立大学人文社会学部 准教授 大貫 俊夫
8	作って食べて考える：イギリスにおける〈食〉 と階級の相関関係に関する領域横断的研究	神戸大学大学院国際文化学研究科 教授 小笠原 博毅
9	奇術資料の残し方・集め方・伝え方の研究 ― 奇術アーカイブの構築に向けて ―	マジック妖 (AYAKASHI) 代表 岡村 真衣
10	不可視化への抵抗：「世系と職業に基づく差別」 と「日本美術史」に関する研究	多摩美術大学美術学部 非常勤講師 小田原 のどか
11	上部旧石器文化の発生と旧人絶滅プロセスの 解明：現生人類の存続要因を探る考古学主導の 人類進化研究	名古屋大学博物館 教授 門脇 誠二

1 2	S M研究：支配と暴力をめぐる欲望の歴史・文化・実践	福岡女子大学国際文理学部 准教授 河原 梓水
1 3	顧みられない熱帯病（NTD s）に対して、人文学は何ができるか？	立教大学経済学部 助教 菊池 美幸
1 4	「歓待インフラストラクチャー」から読み解く近世ヨーロッパ都市文化＝空間構造の比較研究	上智大学文学部 教授 坂野 正則
1 5	戦前日本における体操の「動作」に関する歴史実証研究	北海道大学大学院教育学研究院 准教授 崎田 嘉寛
1 6	霊的景観 霊性との呼応が創出する景観の解明	芝浦工業大学建築学部 教授 清水 郁郎
1 7	議論の現在のな軛とその破壊、ありうべき人文学的な議論の研究 ― テキストベースの議論の実践を通じて	江戸川大学基礎・教養教育センター 講師 下山田 周平
1 8	テレビジョンと再編される知覚：メディア論とテクノサイエンスの交錯	ダラム大学現代言語文化学部 助教授 ショーン ハンスン
1 9	「やわらか、やさしい」図書館を通じた超高齢社会における図書館のユニバーサルサービスの構築と社会実装	筑波大学図書館情報メディア系 助教 武田 将季
2 0	「道具の美」をめぐるメディア実践の歴史的 研究：雑誌『工藝』『陶磁』『茶わん』『星岡』 を資料として	大阪経済大学情報社会学部 准教授 團 康晃
2 1	戦後日本における個人書店の社会文化史 ― オーラルヒストリーによる調査と分析	跡見学園女子大学文学部 教授 富川 淳子
2 2	歴史を読み解き未来を紡ぐ思考法「リバー キャスト」の構築に関する学際的・実践的研究	ラボラトリオ株式会社 マネージャー 長島 洋介
2 3	タイ B L ドラマ ― 日本における逆輸入文化 に関する研究	京都産業大学現代社会学部 教授 ボンサピタックサンティ ピヤ

24	排泄の自然誌を編む：ヒトと非ヒト動物の排泄行動の比較から始めるSDGs	信州大学理学部 助教 松本 卓也
25	「伝統素材・技法×3D技術」による民族絵画への触覚的アプローチ	筑波大学芸術系 助教 宮坂 慎司
26	先史日本列島における人獣共通感染症の発生	奈良女子大学大学院人文科学系 教授 宮路 淳子
27	日本酒醸造の変遷と言葉による味覚表現の関係史の構築を目指して	京都府立大学文学部 共同研究員 母利 司朗
28	世界文化遺産保護のための「オーセンティシティ」概念の再構築 — 「本物」の判断基準に関する学際的研究 —	帝京大学文化財研究所 講師 山田 大樹
29	退屈の進化心理学：ヒトと動物のウェルビーイング向上に向けて	京都市動物園生き物・学び・研究センター 主席研究員 山梨 裕美
30	前近代日本における廃墟の文化史	立正大学文学部 教授 渡邊 裕美子

(敬称略、肩書きは申請当時、氏名50音順)

以 上